

男子 関大劇勝!! 37年ぶり決勝進出

第56回
男子 西日本学生バスケット
第55回
女子 本社主催

第7日(3日、大阪市中央体育館)

男女ともに準決勝が行われた。男子は関大が最大の点差から逆転し、88-79で大産大を下して37年ぶりの決勝進出を果たした。昨年準優勝の京産大は浜松大を101-94で下し、決勝戦は4年ぶりの関西勢対決となった。女子は連覇を目指す愛知学泉大が、75-64で鹿屋体大を退けた。関西で唯一勝ち残っていた立命大は桜花学園大に82-99で敗れた。4日には男女の3位決定戦と決勝戦が行われる。

最大23点差ひっくり返した

【男子】

▽準決勝

関大	88
25232317	
13211431	
79	大産大

V かけ京産大と激突

先発も控え選手も登録外の部員も、全員が抱き合って勝利に酔いしれた。最後まであきらめない関大の執念が、大逆転

を呼び込んだ。早川亮馬

コーチ(左)は「点差がついて、逆に開き直れた」。

最大23点差をはね返しての劇的な白星に、若い指揮官は顔をほころばせ

【男子】

▽準決勝

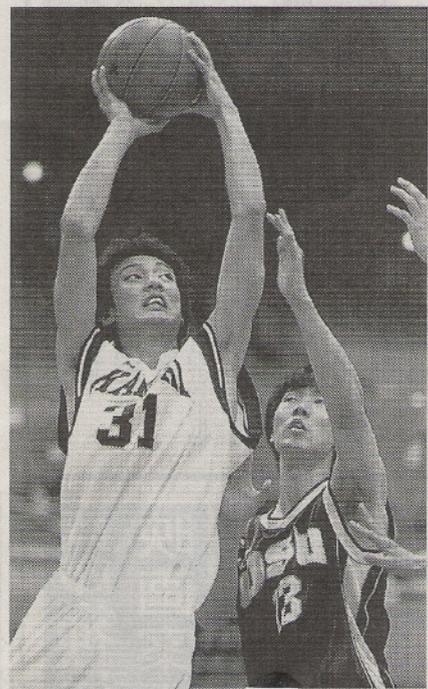
京産大	101	94	浜松大
99	75	82	64
82	64	立命大	

▽準決勝

愛知学泉大
桜花学園大

た。

大産大には苦手意識が85-89で敗れた。地方にニングで足腰を鍛え上げた。昨年のリーグ戦では、1次リーグ上位チームによる2次リーグで差がない相手を打ち破るため、徹底した走力強化。同コーチと同じ鳥羽高に着手。4月には1日1出身の吉田勇太(1年



第4Q、関大・吉田(左)がシュートを決める。大阪市中央体育館

も特訓で力をつけた1人。この日は13得点9リバウンドと、攻守にわたって活躍した。「コートに強気はいけといわれました。その通りにできました」と喜びを爆発させた。

4日には西日本一をかつて京産大と激突する。試合後のミーティングでは、チーム全員で「あと1つ勝つ、優勝するぞ」と絶叫した。1968年以来37年ぶりの優勝へ、この勢いで突っ走る。(広川 継)

学生コーチの復讐戦飾れず

△女子・立命大▽現役学生ながらチームを指揮する乙津(おとつ)コーチの復讐戦を、白星で飾れなかった。教育実習で約2週間、チームを離れていたものの、選手たちの奮起で目標の4強入りは果たせた。「だれかが指示しなくても自分たちで練習したり、動けたりできるようにしていた」と、敗戦にも目を細めていた。

ショーン・テイリススポーツ